

## ● 外来診療のご案内 ●

(2023年10月1日現在)

	診療科	月	火	水	木	金
午前	消化器内科		三原 通晴	三原 通晴	*土亀 直俊	三原 通晴
	循環器内科	廣田 晋一	掃本 誠治	掃本 誠治	廣田 晋一	掃本 誠治
		福田 仁也	廣田 晋一	福田 仁也	黒川 博文	*松永 光平
	代謝内科・糖尿病	櫻田 郁	櫻田 郁	*大津 可絵		櫻田 郁
	呼吸器内科	鈴木 智子	鈴木 智子	*御任 玲美	鈴木 智子	*木村 俊貴
	腎臓内科			*岡村 景子		
	外科				*白石 裕大	
	整形外科	紫垣 光久	紫垣 光久	紫垣 光久	紫垣 光久	紫垣 光久
		坂本 佳菜子		坂本・橋本	坂本 佳菜子	
	脳神経外科	吉里 公夫	吉里 公夫	吉里 公夫	吉里 公夫	吉里 公夫
健診科	*小阪 雅代	*小阪 雅代	櫻田 郁	櫻田 郁	*小阪 雅代	
8:30~12:30	救急外来	黒川 博文	福田 仁也	黒川 博文	福田 仁也	廣田 晋一
12:30~17:15		黒川 博文	廣田 晋一	福田 仁也	廣田 晋一	福田(第1・3週)・黒川(第2・4週)・廣田(第5週)

- ① 当院では、再診予約制を行っております。診察時に次回予約をお取りください。予約変更等の問い合わせにつきましては、平日午後（13時～16時30分）にお願いします。
  - ② 予約外の再来患者様へ：医師の学会等で休診がございます。前日確認の上、来院をお願いします。
  - ③ 午後の通常外来はございません。
- \*は、熊本大学病院等からの非常勤医師です。

診察受付時間：平日 / 8:15~11:30

休診日：土曜日・日曜日及び祝祭日  
年末年始（12月29日から翌年1月3日）

\* 急患の方はこれに限らず24時間対応致します。



### 交通アクセス



**路線バス** 九州産交バス「A4-1」「A4-2」「U2-1」：北区役所・小野泉水行  
熊本電鉄バス「C4-4」「C4-5」：北区役所行  
いずれも「植木病院・かがやき館前」バス停で下車



**循環バス** ゆうゆうバス植木循環ルート  
「植木病院・かがやき館前」バス停で下車



**乗用車** ・熊本市中心部より30分  
・山鹿市中心部より30分  
・九州自動車道 北熊本スマートインターから5分  
植木インターから10分

### 地域医療連携室のお知らせ

当院では、各医療機関との連携を推進しております。その窓口として「地域医療連携室」がございますので、ご活用くださいますようお願い申し上げます。

#### 地域医療連携室

電話：TEL096-273-2111 (代表)  
FAX096-272-2117 (代表)

### 編集後記

今年は猛暑日が続く、熱中症で搬送される患者様が多かった気がします。日中の過ごし方、自宅内での過ごし方を考えさせられる年になりました。室温管理、水分摂取は忘れないようにしたいですね。

5月から新型コロナが5類に移行し、当院も面会が可能になりました。入院されている患者様が家族の方と面会されている様子を見てみると、笑顔が増えたような気がします。このまま感染が落ち着いてくれれば良いと願うばかりです。



# 植木病院だより

Vol.39  
令和5年 秋

発行所 〒861-0136 熊本県熊本市北区植木町岩野285-29  
TEL096-273-2111 FAX096-272-2117

熊本市立 植木病院



公式ホームページ

発行人 掃本 誠治



#### 基本理念

信頼と満足の得られる全人的医療の提供

#### 基本方針

患者さん中心の医療  
安全医療の推進  
地域に密着した連携医療  
たゆまざる質向上と自己研鑽  
健全経営の確保



日頃から当院に対しましてご理解・ご指導を賜りまして誠にありがとうございます。

5月から新型コロナは第5類になりましたが、陽性の重症化リスクのある高齢患者さんが10~15名常に入院加療されています。当院におきましては、職員一人一人が感染対策に注意を払いながら、自治体病院としての高い意識をもって対応してまいります。

当院は令和元年9月に厚労省から発表されました再編・統合を促す必要がある公立・公的病院に指定されました（全国公立・公的1455病院〈197病院を除く〉のうち424病院〈当時〉）。令和5年の熊本県地域医療構想調整会議をへまして、令和7年度より現在の141床から110床へのダウンサイジングが決定しました（急性期病床88床から65床へ削減、地域包括ケア病床14床から20床へ増加、慢性期療養病床39床から25床へ削減）。急性期を減らして回復期機能に相当する地域包括ケア病床を増加することで、国の政策に則った変更になります。引き続き、地域医療に貢献してまいります。

さて、今年の中秋の名月は9月29日で満月と重なります。できれば、十三夜（今年は10月27日）も美味しいお酒と和菓スイーツで月を愛でたいと思いますが、そうはできない状況が続きます。

また、救急医療に関しては、平成時代は年間400~

500件で推移していた救急車受入件数は令和に入り漸増し、昨年度（令和4年度）は754件の過去最高となり、今年度は1,000件を超える勢いで推移しています。職員のモチベーションを保ちつつ、どのような地域医療貢献ができるのか



模索しながら、いつも申し上げておりますように、当院ですべてを治療するというのではなく、人的、時間的、物的な制限がありますので、できることは地元で行いつつ、何がこの患者さんにとってベストかを考え、必要であれば、高度急性期・専門病院に速やかに搬送できるよう日頃から密に連絡をとり市北部、鹿本地域における当院としての役割を担っていくことが、地域住民、医療機関の皆さまの期待に応えるものと考えております。

急性期病床から慢性期を有するケアミックス型病院として、「信頼と満足の得られる全人的医療の提供」の基本理念のもと、全職員（看護、医療、メディカルスタッフ、事務、委託の全部門を含めて）地域の保健・医療・福祉に貢献したいと存じますので、引き続き皆さまのご指導・ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

病院長 掃本 誠治



## ● 循環器内科より ●

当科では院長をはじめ、4名の循環器内科専門医で診療を行っております。循環器内科は心臓病を専門としており、具体的には心筋梗塞・狭心症などの虚血性心疾患、不整脈、心臓弁膜症、心不全、高血圧などが対象となります。

虚血性心疾患に対しては心臓CTや心臓カテーテル検査を行って、冠動脈（心臓を栄養する血管）の詰まっている所や狭い所を正確に把握し、必要であればカテーテルによる手術（風船治療・ステント挿入術など）を行っております。

不整脈に対しては、徐脈（脈が遅い）に対するペースメーカー治療や頻脈（脈が速い）に対する電氣的除細動治療などを行っております。

当院では施行できない開胸術やカテーテルアブレーション治療（不整脈に対するカテーテル治療）、経カテーテル的大動脈弁置換術（弁膜症に対するカテーテル治療）などの先進的治療についても、熊本大学病院をはじめとした高次医療機関と日頃より密に連携しておりますので、当院にて迅速かつ適切に診断し、速やかに紹介いたします。

また、超高齢化社会に突入した我が国では、心不全新規患者が爆発的に増加し、「心不全パンデミック」と言われておりますが、熊本市北区・鹿本地区では特に高齢化が進んでいるため、その対策はまさに急務であります。当院では、心不全患者さんを積極的に受け入れ、その再発予防に力を入れております。当院には、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士といった様々な職種に、日本循環器学会が認定した心不全療養指導士が8名在籍し、そのメンバーが中心となった心不全チームが、医師とともに患者様の心不全治療のサポートを行っております。

さらに令和3年度から心臓リハビリテーション(心臓リハビリ)も開始しております。心臓リハビリとは、心臓病の患者さんが、体力を回復し、快適な家庭生活や社会生活に復帰するとともに、再発や再入院を防止することをめざしておこなう総合的活動プログラムのことです。内容として、運動療法と学習活動・生活指導・相談(カウンセリング)などを含みます。適切な心臓リハビリを行う事で、心臓病の再発予防につながることは多くの試験で証明されております。当院では専門知識を持った心臓リハビリテーション指導士が5名（医師2名、理学療法士3名）在籍し、心肺運動負荷試験(CPX)を行って、その人にあった適切な運動処方を行い、それをもとに心臓リハビリを行っております。

退院後においても、かかりつけ医の先生方との地域医療連携を強化するために、この領域で先進的な取り組みを行っている大阪心不全地域連携の会のご協力を得てハートノートを導入しております。ハートノートは、患者指導および教育を行うためのテキストで、かかりつけ医の先生方と当院での心不全医療連携を行う中で有効なツールになることを期待しております。

当科は、心臓病全般について、複数の専門医にくわえ、多職種のチームで医療を提供し、地域の中核病院として、地域の医療機関や関連施設と連携を図りながら、地域の皆様の健康維持と福祉の向上に貢献出来ればと考えております。

循環器内科医 廣田 晋一



心臓カテーテル治療



心臓リハビリ

## ● インフルエンザ予防接種を受けましょう ●



2020年に始まった新型コロナ感染拡大に伴い手指衛生やマスク着用、3密回避など主に飛沫感染を想定した大規模な感染対策がおこなわれてきました。この感染対策はインフルエンザに対しても有効であったとされておりインフルエンザの大規模な流行も少ない状況が続いていました。よってインフルエンザへの免疫を獲得する機会が少ない状況であったとも言えます。一方で、新型コロナ感染症の5類感染症移行に伴い、感染対策も緩和されており、インフルエンザウイルスへの感染機会が増加していることが懸念されます。高齢者や基礎疾患のある方などが罹患すると、原疾患の増悪とともに呼吸器に二次的な細菌感染症を起こしやすくなることが知られています。インフルエンザワクチンを接種すると発症をある程度抑える効果や重症化を予防する効果があり、高齢者や基礎疾患がある方など罹患すると重症化する可能性が高い方には特に、インフルエンザワクチンの接種をお勧めいたします。新型コロナ感染症も終息したわけではありませんので「自分が感染しない」、「他の人に感染させない」、「感染を広げない」などを意識した行動が引き続き必要です。これからも両者の予防として、手洗いや適度な室温・湿度の保持、室内換気、十分な休養とバランスの取れた栄養摂取、流行期に人混みを避けるなどを普段から心がけることが重要です。

呼吸器内科医 鈴木 智子

当院ではかかりつけの方を中心に受付を開始しております。予約制ですので早めのご予約をお勧めします。また、アレルギーのある方は事前にお伝えください。

### <予約方法>

#### 電話予約の方

平日午後（13時から16時30分）に電話にてご予約ください。問診票は当日受付にてお渡し致します。他院かかりつけの場合は接種可能であるか主治医への確認が必要となります。また、未成年（18歳未満）の方は保護者同伴でお願いします。なお、小児（16歳未満）は受け付けておりません。

#### 当院かかりつけの方

外来受診時に担当医に予防接種のご希望をお伝えください。

\*費用や接種開始時期に関しましては今年度のインフルエンザワクチンの入荷状況により異なります。また、接種される方のご年齢やご住所によっても補助の金額が変わりますので、インフルエンザワクチンの接種時期になりましたらお気軽にお問い合わせください。

## ● 訪問看護ステーションのご案内 ●

令和2年5月にみなし訪問看護から訪問看護ステーションに移行しました。

『住み慣れた我が家でいきいきと自分らしく、安心して療養ができるように支援していきます』をスローガンに、利用者の意志を尊重し、自宅で安心して生活できるように看護提供を行っております。健康状態の観察、病状悪化の防止・回復、療養生活の相談とアドバイス、リハビリテーション、点滴、在宅酸素、人工呼吸器、薬剤管理など訪問看護内容も多岐にわたり行っております。お一人おひとりの病状や療養生活を把握し、看護の専門家の目で見守り、適切な判断に基づいたケアとアドバイスで在宅生活が送れるように支援します。

現在、看護師4名で24時間対応、退院支援、医療処置、入院中の外泊支援など様々なケアを、看護師経験を活かし対応しておりますので、病気、療養、介護等の悩みなど何でもご相談ください。よろしくご依頼申し上げます。

